生涯学習・市民活動情報誌

らしっく

自分らしく、
粋なくらし

Vol.75
水無月号
2026.7

みなづき／陰暦6月、陽暦の7月ころにあたる。炎暑のため、水が涸れ尽きて地上に水の無い月と解されている。酷暑にあえぎながら風待つうちに、時に雷鳴や夕立を催し、夕暮れの涼しさには秋の気配を覚える時期である。

CLOSE UP

変わるまちなみ 変わらない思い
駅周辺のにぎわいづくり

広島駅周辺地区まちづくり協議会
“ワクワクドキドキできるまち”
“変化し続けるまち”を目指して

横川商店街連合会
横川駅を中心に周辺の商店街が一体となり、
まちぐるみで地域を盛り上げる

己斐の魅力と歴史を伝える会
広島の歴史の中でも重要な己斐を
もっと知ってほしい

連載

▶らしっくレポート　地域と一緒に千田地区「魅力発見マップ」を作成
▶らしっくコラム　都市を彩る「界隈」の多様性 ～広島に「10の界隈」を～　▶ようこそ！公民館へ～東区内公民館～
▶人材バンク 名人 宝人 達人　▶Hm²助成団体決定！　▶Hm²助成支援団体のご紹介　▶情報の森　▶プラザ通信

特集1

“ワクワクドキドキできるまち”“変化し続けるまち”を目指して

外国人観光客に対応するコンシェルジュ的な役割をする人たちが一堂に会す「コンシェルジュミーティング」の様子

CLOSE UP

変わるまちなみ　変わらない思い
駅周辺のにぎわいづくり

時代とともにまちなみは変わってきます。広島市でも広島駅が新しくなったり、新サッカースタジアムができたりと、変化が続いています。新しいまちなみに変わる中、地域の人の変わらない思いを紹介します。

広島駅周辺地区まちづくり協議会

https://www.ekimachi-hiroshima.jp/index.html

時代と共に変化する広島駅エリア「エキマチ」を広島の玄関口としてより魅力的にプロデュース

令和7年、路面電車が広島駅2階に乗り入れる事が全国的にも話題になった広島駅。広島駅周辺地区「エキマチ」の新しい魅力づくりと価値向上を目指し、平成30年に発足し、民間企業、自治体、大学など48団体が手を取り合い、「これからのまちづくり」をカタチにしています。

現在、特に力を注いでいるのが、広島の大きな魅力である「川」を活用した「広島駅×猿猴川プロジェクト」です。駅南口から南側の猿猴川方面へと繋がるペデストリアンデッキが完成したことで、人々の動線に大きな変化が生まれています。「これまでも河岸でイベントを開催してきましたが、回遊性が高まった今、これまで以上の手応えを感じています」。そう語るのは、プロジェクトを支援する吉田実（よしだみのる）さん。プロジェクトの一環である水辺空間活用社会実験「ミズベビラキ」では、広島大学の学生たちが企画・運営・調査を担当。豊かな水辺空間をどう活かしていくか、若い力で模索を続けています。

▲ 広島大学の学生たち

▲ ミズベビラキの様子。学生の提案で川に面したテーブルが好評　撮影・福角智江

新デッキから広がる人の流れを活かし、豊かな水辺空間を活用する「ミズベビラキ」

令和6年にスタートしたこの社会実験も、今年で3年目を迎えました。イベント開催時は毎回動画を撮影して人々の動きを可視化。そこから見えてきた課題を次回に活かすという、確かなデータ分析に基づいた研究が進められています。「学生たちが企画してくれたものを実現するのが、私たち協議会の役目。48もの参加団体が持つスキルや資源を連携し、計画・実行しています。若い人たちの意見や感覚は本当に新鮮で、私たちだけでは発想できない提案をしてくれる。その生き生きとした姿は、見ていて本当に誇らしいです」。そう語って目を細めるのは、社会実験を担当する釜井（かまい）れもんさんです。イベント立ち上げ時から携わっている前川俊輔（まえかわしゅんすけ）さん（広島大学大学院先進理工系科学研究科2年）も、「自分たちが頭の中で描いた理想を形にし、そこを訪れた人々が喜ぶ笑顔を直接見られるのが何より嬉しいです。広島にこんなに素敵な空間があることを、もっとたくさんの人に知ってもらいたいです」と、力強く意気込みを語ります。

新しく生まれ変わる広島駅周辺地区「エキマチ」と、豊かな広がりを見せる猿猴川の水辺空間。若い感性と地域の有志たちの情熱が織りなす対話型・実験型のまちづくりは、これからも広島の玄関口である「エキマチ」をより一層、輝かせていくに違いありません。

▲ 毎月開催されている「おもてなし一斉清掃」の様子　撮影・福角智江

らしっく
自分らしく、枠なくらし
Vol.75
水無月号
2026.7

contents

特集
01 変わるまちなみ　変わらない思い 駅周辺のにぎわいづくり
▶広島駅周辺地区まちづくり協議会

ミズベビラキの様子（令和7年11月）
▶横川商店街連合会

横川ゾンビナイトの様子（令和7年10月）
▶己斐の魅力と歴史を伝える会

己斐駅前KOI PLACEで行われたイベント「KoitoBonSai」での星野喜蝶書道パフォーマンスの様子（令和7年10月）
05 らしっくレポート ひろ記者が行く
▶地域と一緒に千田地区「魅力発見マップ」を作成
らしっくコラム
▶都市を彩る「界隈」の多様性 ～広島に「10の界隈」を～
広島大学大学院先進理工系科学研究科 都市・建築計画学研究室 教授 田中 貴宏
06 ようこそ！公民館へ
▶東区内公民館
07 人材バンク　名人 宝人 達人
▶三村 明子さん
▶中島 昭雄さん
09 Hm²助成団体決定！
10 Hm²助成支援団体のご紹介
▶アーバンビュー宇品フェアパークコミュニティ委員会
11 情報の森
15 プラザ通信

※掲載している各団体への問い合わせは発行者である（公財）広島市文化財団まちづくり市民交流プラザまでお願いします。☎082-545-3911

横川駅を中心に周辺の商店街が一体となり、まちぐるみで地域を盛り上げる

横川商店街連合会

https://e-yokogawa.net

春夏秋冬、数々のイベントを実施 その源は、自助共助の精神

「広島城の北側に位置する横川付近は、1589年に毛利輝元（もうりてるもと）が築城を始めた広島デルタ地帯で、度々太田川が氾濫し、300年の間で200回近くも洪水の危険にさらされてきた地域です。その中で、住民たちは自助共助の精神を宿し、いつの間にか助け合いながら生活するようになったんです。今、イベントを行う際に、地域住民が積極的に自分の役割を見つけて活動するようになったのは、そこが原点ですね」と会長の星野哲郎（ほしのてつお）さん。

▲ 横川商店街連合会の皆さん

平成8年3月、イベントのひとつとして始まったのが「横川ふしぎ市」。横川本通り商店街、くろすろーど商店街、星のみち商店街、駅前商店街、新宿商店街、そして当時あった繁栄会（その後、横川本通り商店街と統合）、この6つの商店街が一体となったこのイベントに、第1回目は約3万人が集まりました。その後も中止になった年はあるものの現在も継続、令和8年で30回目を数えました。「商店街のみならず、地域の体協や学校も協力。中広中学校の生徒たちがデザインしたポスターを制作する他、企画・運営を行うブースも出店。社会実習を兼ねた形で、地域の盛り上げに一役を買ってくれ、まさに地域一体となって盛り上げています」。他にも、夏は「よこがわ・川・夏フェス」、秋には「横川まちの芸術祭-よこげい-」「横川ゾンビナイト」、冬は「横川クリスマス」と一年を通してまちぐるみのイベントを実施。全て、地域の商店、団体が協力し取り組んでいます。

エディオンピースウイング広島へ続く道 横川ビクトリーロードで広島のサッカーを応援

令和6年2月、サンフレッチェ広島のホームスタジアム「エディオンピースウイング広島」が開業。

「当初、行政の試算では、試合観戦後のサポーターは紙屋町方面や白島に大半の人が流れ、横川方面にはほぼ流れない、という想定でした。しかし、川向うで日々完成に近づく新スタジアムの姿を眺めながら、私たちが何もしないのはもったいない。何とかサポーターに横川に足を運んでもらい、盛り上げたい。そこで商店街連合会のメンバーで、アイディアを出し合い考えました」。JR横川駅から、スタジアムへと続く道を「横川ビクトリーロード」と名付け、横川本通り商店街にある郵便局のポストはチームカラーの紫色に塗装。出口にある横川胡子神社では、勝利祈願にちなんだサッカー絵馬を販売。すぐ横にある、おかえり観音も紫色にするなど、地域一体となって盛り上げています。「約2年が経ち、サポーターにも認知されたのか、観戦前、観戦後に横川ビクトリーロード内の飲食店に立ち寄る人が増えています。またこれまでは数少なかったスタジアム側から横川橋を渡って横川商店街方面へ足を運ぶ人も増え、その効果に長い間この地域に住む私たちも驚いています」。さらに皆さんは、区をまたぎスタジアムへ続く寺町の住民とも連携、試合日限定で仮設の街灯を設置するなど、横川ビクトリーロードを歩く人が安心、安全に通行できるように取り組んでいます。

「地域の住民は、支える側、支えられる側もどちらも楽しんでいます。その源にあるのは、親から子へ、子から孫へと受け継がれる自助共助の精神。今後も、横川の名物を作り続けるためにも、常に発信を続けたいと考えています」。バイタリティ溢れ、行動力ある皆さんの活動は、わがまち横川を盛り上げる大きな力を感じます。

▲ 横川胡子神社

▲ サンフレッチェ広島のチームカラーの紫色に塗られたおかえり地蔵

▲ サンフレッチェ広島の試合開催日の横川ビクトリーロードの様子

広島の歴史の中でも重要な己斐をもっと知ってほしい

己斐の魅力と歴史を伝える会

https://www.instagram.com/koi_to_bonsai?igsh=MW9xdDRzajc5MXA4MA==

西国街道、盆栽発祥、鯉の神話

広島市西区己斐地区の文化と歴史を次世代へ継承するために令和7年に結成された地域活性化グループ。代表を務めるのは、地元己斐にて400年以上続く造園業の代表でもある着能松太郎（ちゃくのうまつたろう）さん。「己斐は広島の歴史的拠点であり盆栽発祥地、また、伝統工芸、産業の歴史が深い。それなのにあまりにも認知されていないし、観光地へ向かう通過点的場所になっている」と話します。

同会の事務局を担う堀江剛史（ほりえよしふみ）さんも「広島の歴史を広める活動を続ける中で、己斐はとても重要な場所だと気づいた。もっと魅力を多くの人に知ってほしい」と、同会を牽引します。

己斐が広島の歴史的拠点だった理由は大きく3つ。一つ目は西国街道、二つ目は盆栽発祥の地、そして三つ目が鯉の神話※。

これらを柱とし、過去を読み取ることで今を知る活動を行っています。

▲「己斐に恋する連続講座」の様子（令和8年7月己斐公民館）

市民参加型のイベントを通して シビックプライドに繋げたい

これまで「己斐に恋する連続講座」を広島城学芸員などを講師に迎え己斐の歴史を深掘りしてきました。さらに、己斐の今に繋がる歴史や文化がひと目でわかる「己斐に恋する歴史MAP」の制作・配布も実施。西広島駅前の「KOI PLACE」では、市民参加型のイベント「KoitoBonSai」（令和8年10月に開催予定）を開催。西国街道トークショー、地元のバトンクラブのステージ、盆栽レクチャーと盛りだくさんの内容で大好評でした。なかでも地元の高校と専門学校の生徒が生花を生けて競う「花結斐コンテスト」は、今年も注目が集まっています。

▲ 己斐に恋する連続講座案内

「せっかく地元のみなさんに集まってもらうからには、記憶に残る時間にしたい。楽しみながら地域の歴史や文化をこどもたちに伝え、誇りを持たせること（シビックプライド）が重要だと考えている」と思いの丈を話す堀江さん。着能さんも「己斐に住んでいる皆さんに、まずは地元の歴史を知ってもらいたい。広島って、己斐っておもしろい！ ただ知られていないだけなんです」と柔らかな笑顔で語ります。同会の活動はまだまだ始まったばかりですが、先人たちの歴史が今につながり、これから継承していく重要な役割を担うことでしょう。

※鯉の神話とは、己斐という地名の由来にもなった伝説で、いまから1800年以上前、遠征の途中に「旭山神社」でひとやすみしていた神功皇后に地元の長が大きな鯉を献上したところ、「こひ！」と声を上げて喜んだそうです。それがのちに地名となったと言われています。

▲ 花結斐（はなゆい）コンテストの様子（令和7年10月）

▲「KoitoBonSai」でパフォーマンスする幾田バトンスタジオの皆さん（令和7年10月）